

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 11 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	瀧山 拓哉

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
宮崎県串間市 幸島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
生態学野外実習 幸島
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 4 月 22 日 ~ 平成 29 年 4 月 30 日 (9 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター幸島観察所, 技術職員, 鈴木崇文氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
宮崎県串間市にある無人島、幸島は約 100 頭のニホンザルが生息している。幸島は、今西錦司博士が霊長類学を開始した「日本霊長類学発祥の地」としても知られている。今回、大学院生を対象としたフィールド科学実習に参加し、幸島を訪れた。
日程 4 月 22 日 三宮発のフェリーに乗船。 4 月 23 日 宮崎港を經由し幸島着。到着後、技術職員の鈴木氏による宿泊施設についてのガイダンス。 4 月 24 日 午前中に幸島にて予備観察。 4 月 25 日 幸島にて観察。 4 月 26 日 都井岬で野生馬の観察。 4 月 27 日 幸島にて観察。 4 月 28 日 データ分析。研究成果発表。 4 月 29 日 解散。フェリー乗船。 4 月 30 日 犬山に帰着。
・幸島での観察実習 フィールドワークの初歩を学ぶ本実習の最大の目的は「サルになる」ということであった。24 日はニホンザルの行動を詳しく見るためにフォーカルサンプリングで予備観察を行った。 25 日、27 日は予備観察を終えてから 24 日に決定したテーマで実験を行った。実験ではニホンザルが目を合わせると威嚇行動をとることがあるという習性を利用して、ニホンザルが心の理論を持つかどうかを検証した。心の理論とはプレマックらが提唱した概念であり、他者の行動などからその心理状態を推測するものである。心の理論を持つかどうかは、他者が誤った信念を持っているということを理解できるかどうかを確かめる誤信念課題によって検証されている。
そこで今回は実験者がニホンザルに近寄り、目をのぞき込んだ際に、実験者と対象個体との間に他個体がいるかどうかで行動が変化するかどうかを調べた。他個体が存在するとき、対象個体が実験者に対して行った威嚇行動は他個体に対する威嚇行動だと他個体に誤解される恐れがある。従って、ニホンザルが心の理論を持つ場合、他個体が自分の行動に対して誤信念を持つ可能性があると考えられるであろう。そのため、他個体が存在する条件下では威嚇などの積極的な行動が減少するという仮説を立てて、ニホンザルの反応を分析した。
分析の結果、仮説通り、ニホンザルは他個体が存在するとき、積極的な反応が減少していた。これは仮説通りニホンザルが心の理論を持つという証拠とも考えることができる。しかし、他個体が邪魔になり、対象個体が実験者に向かってくることができなかったなどの理由も考えられるために、ニホンザルと同じ大木の物を障害物としておき、対象群として比較するなど方法を改善して検証する必要があると考えられ

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

る。

今回の実験は、予備観察を終えてから決めたこと、観察時間も計4時間程度と短かったことから方法等も改善の余地が残るものになってしまったことが残念であったが、短い時間で実験を考え実際に行う経験は非常に有意義であった。

・都井岬

26日は雨天で幸島に行くことができなかったため、都井岬を訪れ、半野生馬の観察を行った。都井岬ではビジターセンター甲斐崎氏の案内のもと、野生馬の観察を行った。甲斐崎氏の説明によると、都井岬には約100頭の馬が生息しているが、日によっては観察できないこともあるそうだが、幸いにも多くの馬を観察することができた。観察前日に産まれたという仔馬も観察することができた。オトナ個体とほとんど遜色なく歩き回っていたのが驚きであった。



幸島での観察の様子



ニホンザルの威嚇



観察前日に産まれたウマ



幸島に徒歩で渡る途中で見つけたアカウミガメの屍骸

6. その他 (特記事項など)

本実習はPWSの支援によって行われました。サポートしてくださったPWS支援室の左海さん、秋山さんに深く御礼申し上げます。現地で指導していただいた鈴木さん、Huffman先生、田中先生、ほかの参加者の皆様にも大変お世話になりました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。